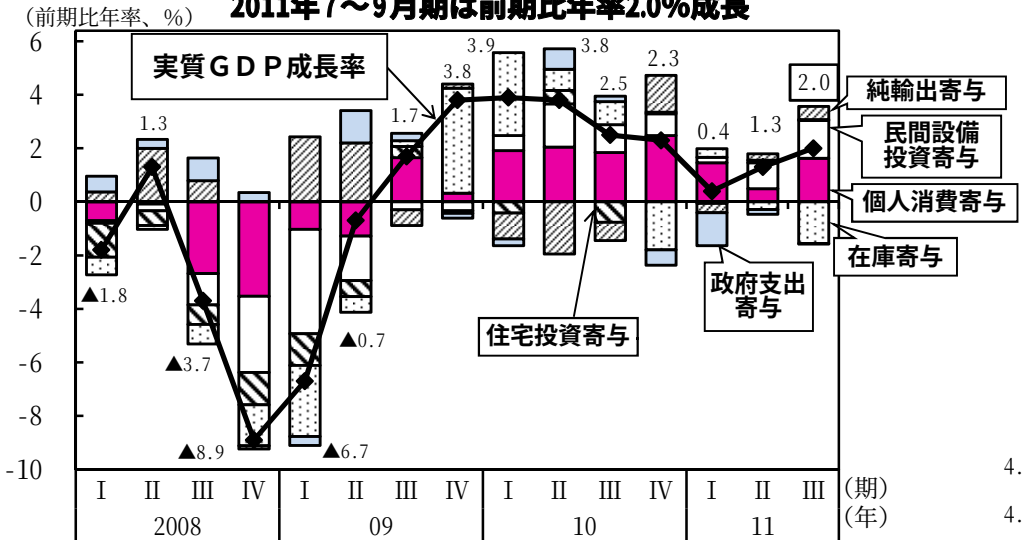
１．アメリカ

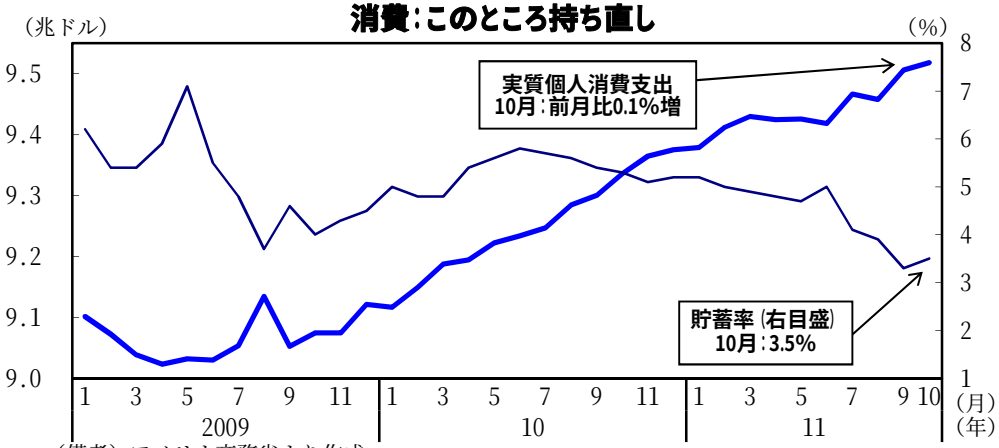
○アメリカでは、弱い景気回復になっている。
○先行きについては、弱い景気回復が続くと見込まれる。
ただし、失業率の高止まりや住宅価格の下落等により、景気が下振れするリスクがある。また、このところの金融資本市場の動きや財政緊縮の影響に留意する必要がある。

ＧＤＰ（第２次推計値）：
2011年７～９月期は前期比年率2.0%成長



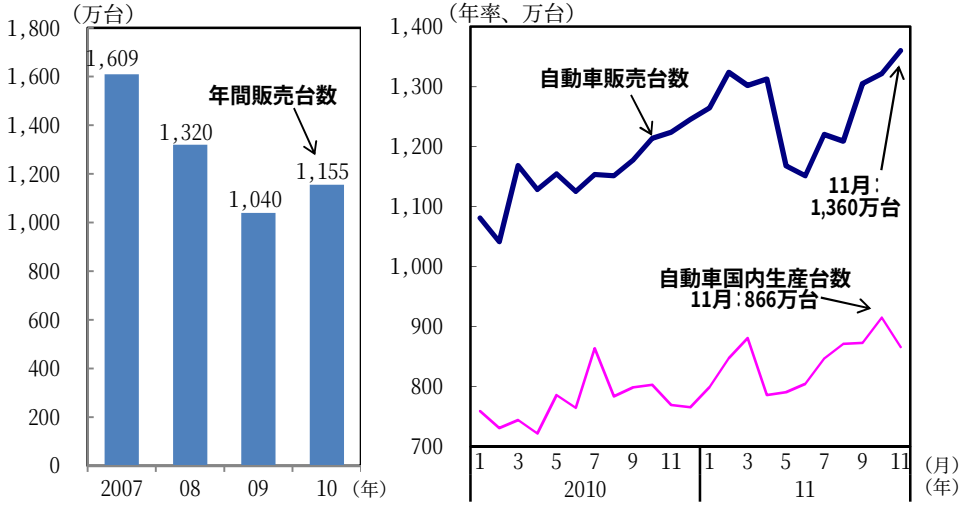
（備考）アメリカ商務省より作成。

消費：このところ持ち直し



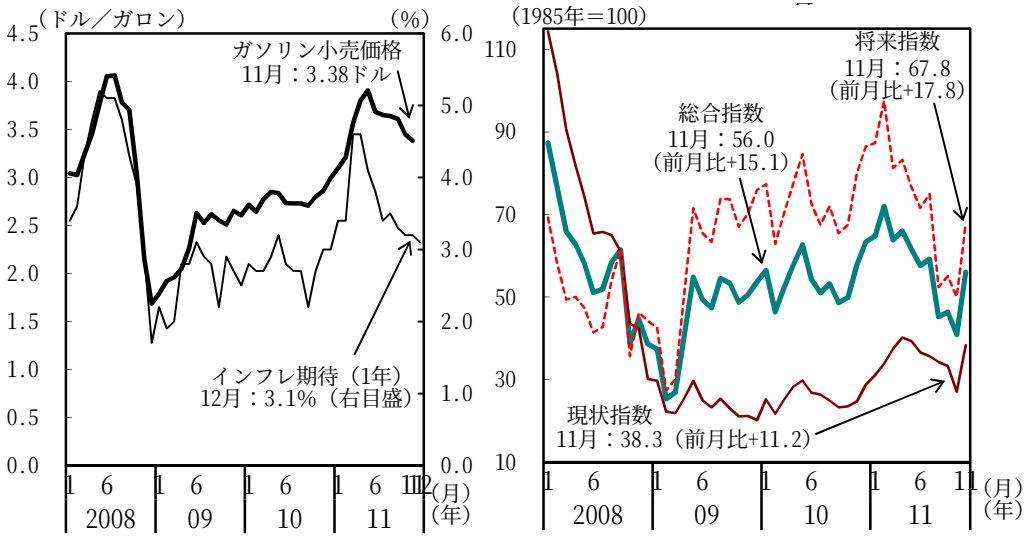
（備考）アメリカ商務省より作成。

自動車販売台数は増加



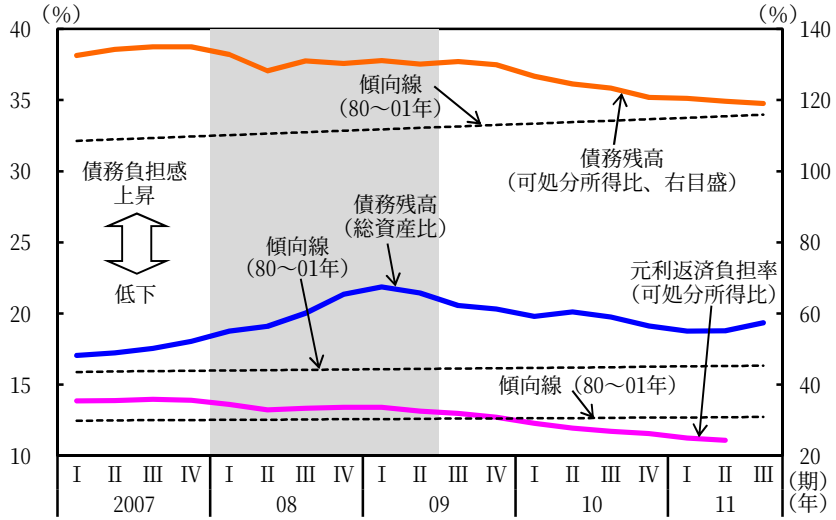
（備考）1．アメリカ商務省、連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）より作成。

消費者信頼感指数は持ち直し



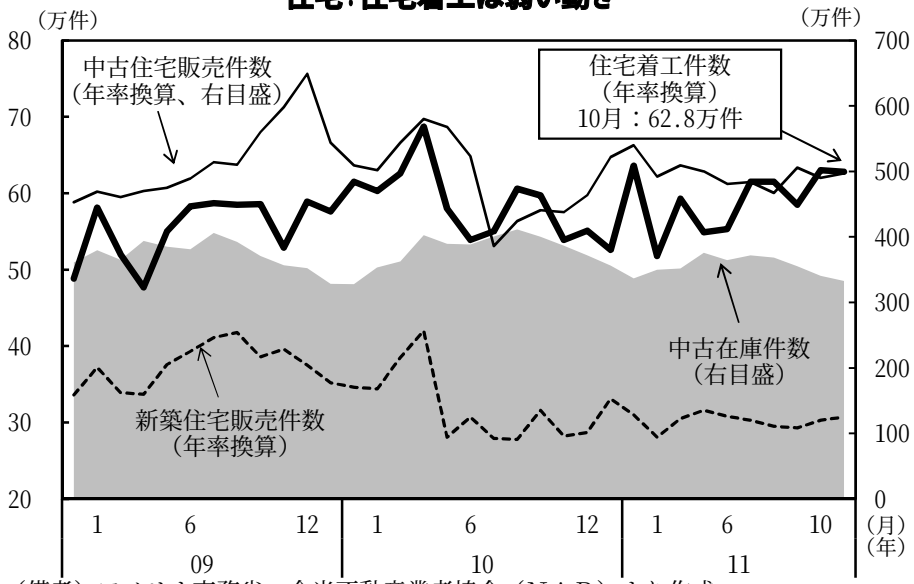
（備考）1．コンファレンス・ボード、アメリカ・エネルギー省、ミシガン大学より作成。
2．将来指数は６か月後の見通し。ガソリン小売価格は月平均価格。
インフレ期待は、今後１年後における物価上昇率予測回答の中央値。

家計のバランスシート調整は継続



（備考）1. アメリカ商務省、連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）より作成。
2. 網掛け部分は景気後退期を指す。
3. 「元利返済負担」は、住宅ローン及び消費者ローンの返済負担を示す。

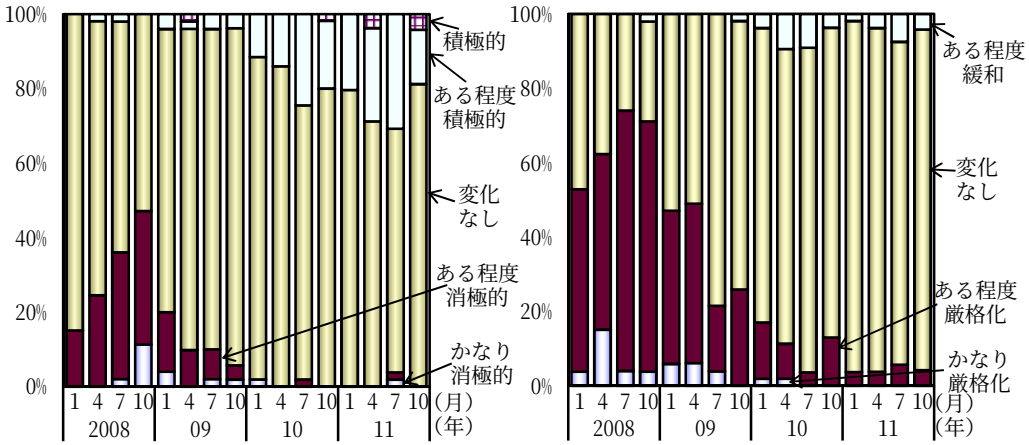
住宅：住宅着工は弱い動き



（備考）アメリカ商務省、全米不動産業者協会（ＮＡＲ）より作成。

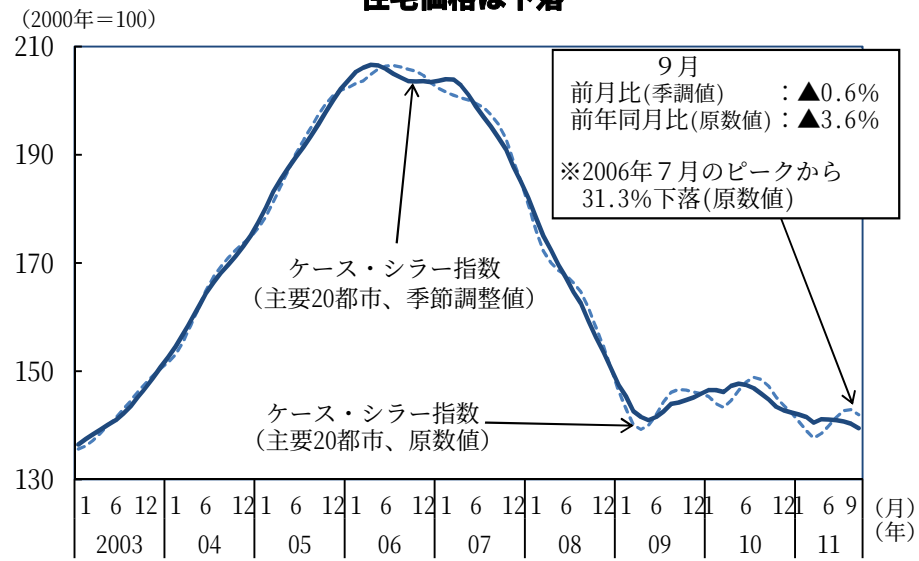
金融機関の貸出態度は依然として厳しい

（１）消費者向けローン　（２）住宅ローン（プライム）



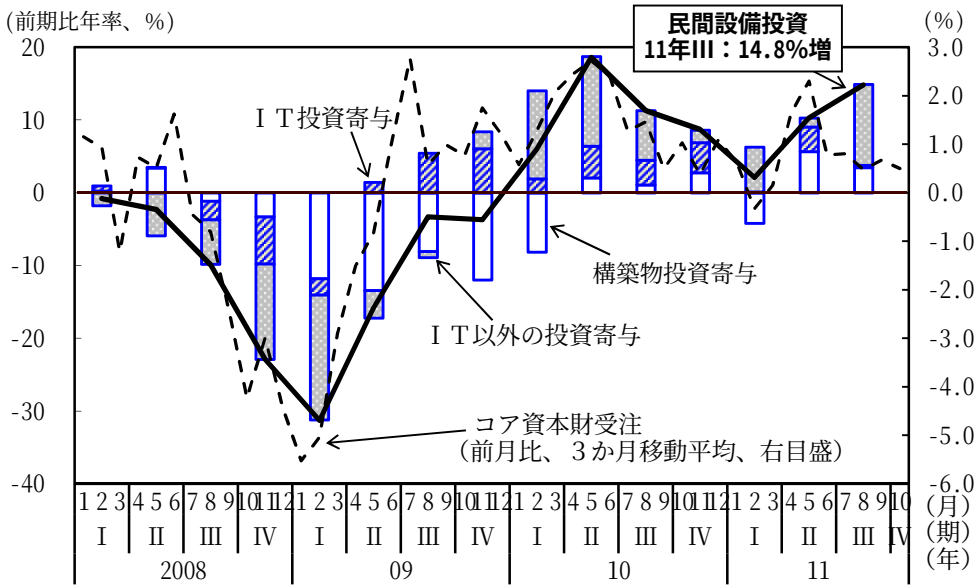
（備考）1. 連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）より作成。
2. 金融機関に対し、（１）過去３か月間で消費者向けローンに対する貸出態度をどのように変化させたか、（２）住宅ローン（プライム）の申請に対する貸出基準をどのように変化させたか、それぞれアンケート調査を行ったもの。

住宅価格は下落



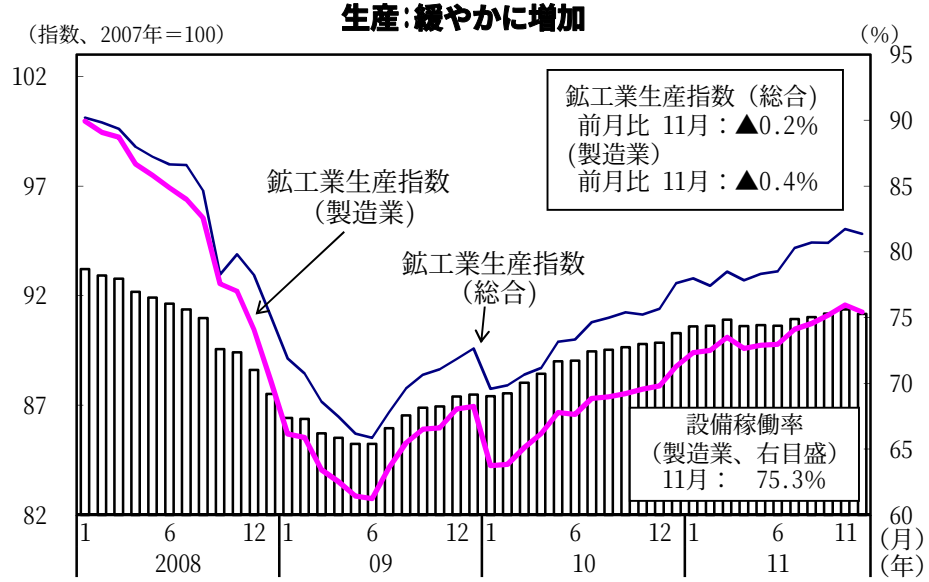
（備考）スタンダード・アンド・プアーズより作成。

設備投資：増加



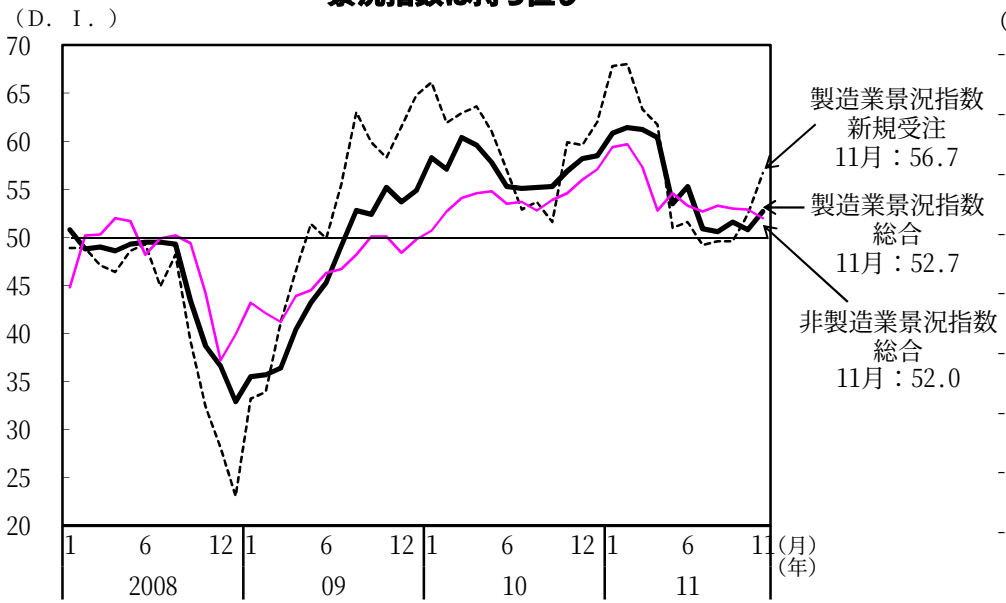
（備考）アメリカ商務省より作成。

生産：緩やかに増加



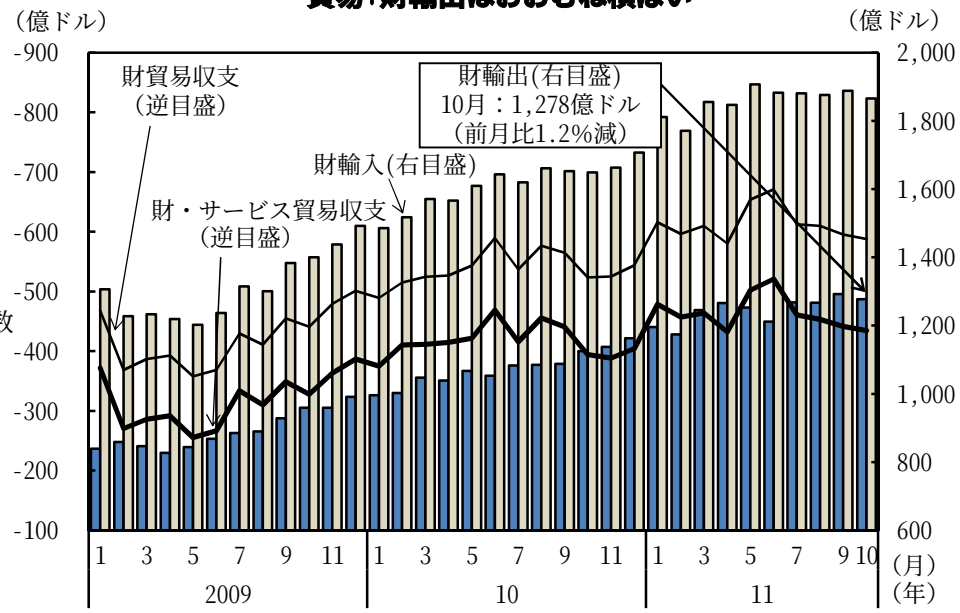
（備考）連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）より作成。

景況指数は持ち直し



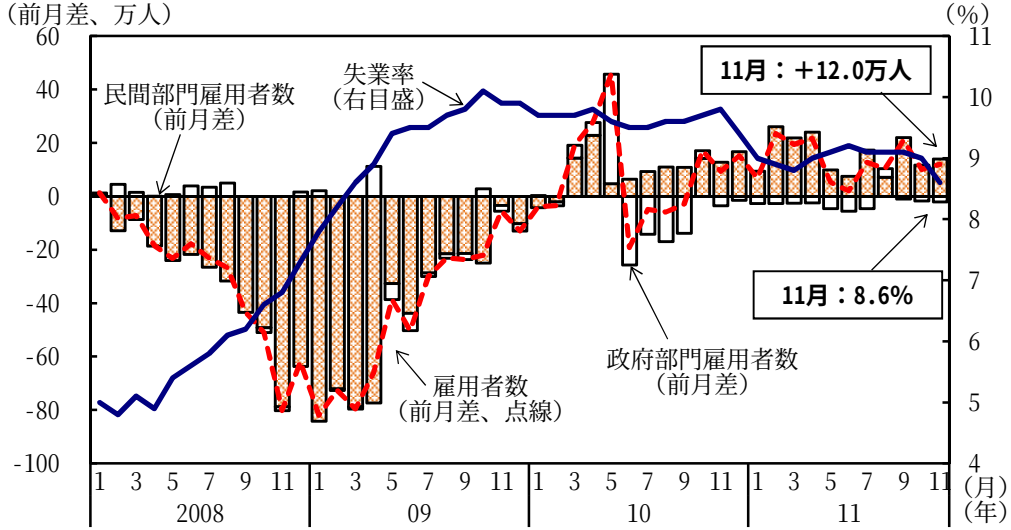
（備考）全米供給管理協会（ＩＳＭ）より作成。

貿易：財輸出はおおむね横ばい



（備考）アメリカ商務省より作成。

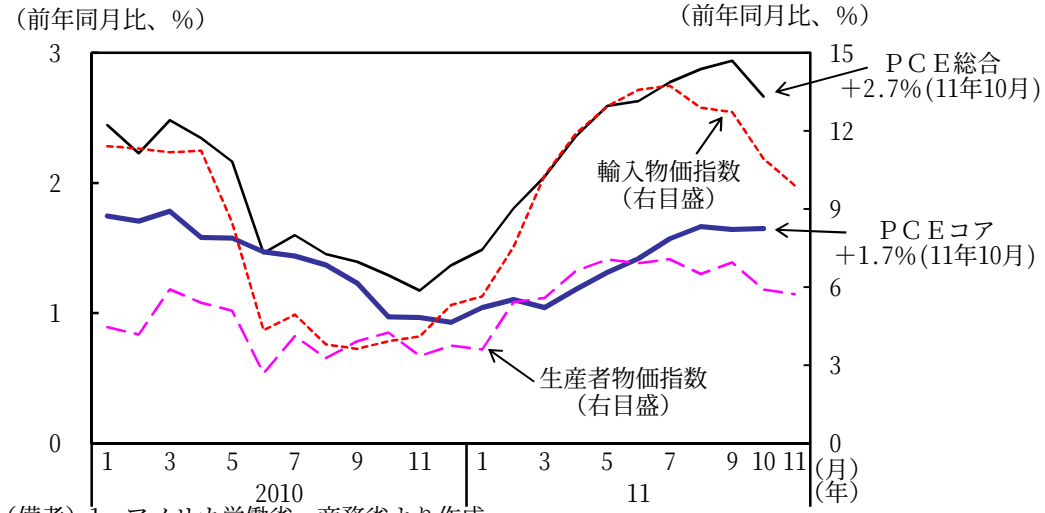
雇用：雇用者数は緩やかに増加しているが、失業率は高い水準



08～09年の雇用者数増減：▲866.3万人
10年以降の雇用者数増減：＋238.8万人

（備考）1．アメリカ労働省より作成。
2．雇用者数は非農業部門。

物価：コア物価上昇率は落ち着きがみられる



（備考）1．アメリカ労働省、商務省より作成。
2．コア指数は、総合指数からエネルギーと食品を除いた指数である。

主要機関等による実質経済成長率の見通し

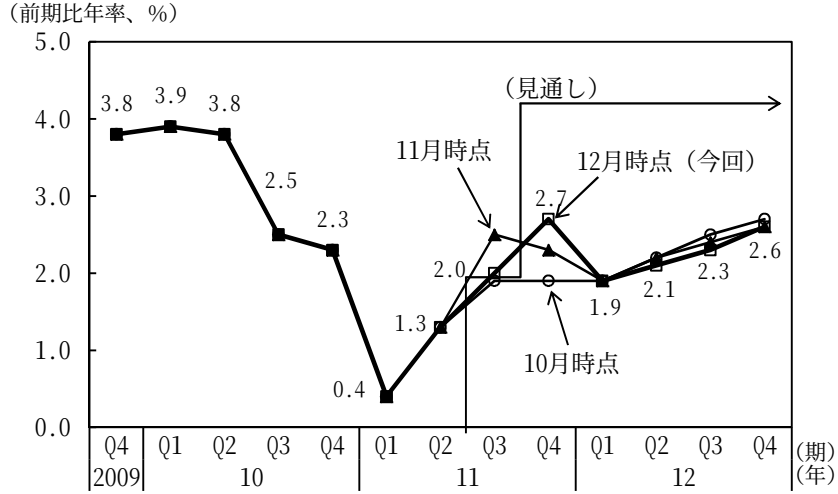
（前年比、%）

		11年	12年
ブルーチップ（民間見通し平均）（11年12月10日）	上位10社	1.8（1.8）	2.7（2.7）
	平均	1.7（1.8）	2.2（2.1）
	下位10社	1.7（1.7）	1.6（1.5）

（前年比、%）

	11年	12年
ＯＥＣＤ(11年11月28日)	1.7	2.0
ＩＭＦ（11年9月20日）	1.5	1.8
行政管理予算局(ＯＭＢ)(11年9月1日)	1.7	2.6
議会予算局（ＣＢＯ）（11年8月24日）	2.4	2.6
連邦公開市場委員会(ＦＯＭＣ)(11年11月2日)	1.6～1.7 (10～12月期の前年同期比)	2.5～2.9 (同左)

ブルーチップ 12月



（備考）1．ブルーチップ・インディケータ（11年12月10日号、11月10日号、10月10日号）、ＯＥＣＤ“Economic Outlook 90”（11年11月28日）、ＩＭＦ“World Economic Outlook”（11年9月20日）、アメリカ行政管理予算局（11年9月1日）、アメリカ議会予算局（11年8月24日）、連邦公開市場委員会（11年11月2日）より作成。
2．ブルーチップのカッコ内は、11年11月10日時点の見通し。
3．議会予算局の見通しは、11年７月中旬以降の経済状況の変化やＧＤＰ年次改定を踏まえていない。